

平成28年4月1日現在

博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表]

機関名	広島大学	整理番号	E02
1. 全体責任者 (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) (おち みつお) 氏名・職名 越智 光夫(広島大学学長)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) (かみや けんじ) 氏名・職名 神谷 研二(広島大学副学長(復興支援・被ばく医療担当))		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) (こばやし まさお) 氏名・職名 小林 正夫(大学院医歯薬保健学研究院・教授)		
4. 類型	E<複合領域型(横断的テーマ)>		
5.	プログラム名称	放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム	
	英語名称	Phoenix Leader Education Program (Hiroshima Initiative) for Renaissance from Radiation Disaster	
	副題	放射線災害による人と社会と環境の破綻からの復興を担うグローバル人材養成	
6. 授与する博士 学位分野・名称	博士(医学、歯学、保健学、理学、工学、文学、農学、学術、マネジメント、教育学、心理学)		
7. 主要分科	(① 内科系臨床医学) (② 環境解析学) (③ 心理学) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入 ゲノム科学、基礎医学、境界医学、社会医学、外科系臨床医学、歯学、健康・スポーツ科学、生物資源保全学、物理学、地球惑星科学、複合化学、機械工学、総合工学、基礎生物学、農芸化学、水圏応用化学、境界農学、経済学、哲学、教育学、土木工学		
	(①) (②) (③) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入 放射線科学、消化器内科学、血液内科学、小児科学、環境動態解析、環境影響評価、放射線・化学物質影響科学、社会心理学、臨床心理学、ゲノム医学、人体病理学、細菌学(含真菌学)、医療社会学、衛生学・公衆衛生学、整形外科学、救急医学、外科系歯学、応用健康科学、生物資源保全学、素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理、固体地球惑星物理学、気象・海洋物理・陸水学、グリーン・環境化学、機械材料・材料力学、原子力学、地球・資源システム工学、生物多様性・分類、食品科学、水圏生産科学、環境農学(含ランドスケープ科学)、経済政策、哲学・倫理学、教育学、教科教育学、地理学、地盤工学		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	医歯薬保健学研究科・医歯薬学専攻、医歯薬保健学研究科・保健学専攻、総合科学研究科・総合科学専攻、文学研究科・人文学専攻、教育学研究科・心理学専攻、教育学研究科・教育学習科学専攻、社会科学研究科・マネジメント専攻、理学研究科・物理科学専攻、理学研究科・化学専攻、理学研究科・数理分子生命理学専攻、理学研究科・生物科学専攻、工学研究科・機械システム工学専攻、工学研究科・機械物理工学専攻、工学研究科・社会基盤環境工学専攻、生物圏科学研究科・生物機能開発学専攻、生物圏科学研究科・環境循環系制御学専攻		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名			
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)	福島大学、福島県立医科大学、東北大学、長崎大学、国立研究開発法人放射線医学総合研究所、公益財団法人放射線影響研究所		

14. プログラム担当者の構成 計 58 名			
外国人の人数	1 人	[1.7 %]	女性の人数 6 人 [10.3 %]
プログラム実施大学に属する者の割合 [79.3 %]			
プログラム実施大学に属する者		46 人	プログラム実施大学以外に属する者 12 人
そのうち、他大学等を経験したことのある者		40 人	そのうち、大学等以外に属する者 2 人

15. プログラム担当者					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成28年度における役割)
(プログラム責任者)					
神谷 研二	カミヤ ケンジ		副学長(復興支援・被ばく医療担当) 兼 原爆放射線医学研究所・ゲノム障害医学研究センター・特任教授 兼 緊急被ばく医療推進センター長	放射線障害医学、放射線生物学 医学博士	プログラム責任者 放射線災害医療コース担当
(プログラムコーディネーター)					
小林 正夫	コバヤシ マサオ		医歯薬保健学研究院・統合健康科学部門・教授	小児科学 医学博士	プログラムコーディネーター 放射線災害医療コース担当
松浦 伸也	マツウラ シンヤ		原爆放射線医学研究所・ゲノム障害医学研究センター・教授 兼 医歯薬保健学研究院・医歯薬学専攻・教授	遺伝医学、放射線生物学 医学博士	放射線災害医療コース担当 (コースリーダー)
中島 覚	ナカシマ サトル		自然科学研究支援開発センター・アイソトープ総合部門・教授、兼 理学研究科・化学専攻・教授	放射化学 理学博士	放射能環境保全コース担当 (コースリーダー)
浦邊 幸夫	ウラベ ユキオ		医歯薬保健学研究院・統合健康科学部門・教授	整形外科学 博士(医学)	放射能社会復興コース担当 (コースリーダー)
岡本 哲治	オカモト テツジ		医歯薬保健学研究院・応用生命科学部門・教授	口腔外科学、外科学 系歯学 歯学博士	放射線災害医療コース担当
稲葉 俊哉	イハバ トシヤ		原爆放射線医学研究所・ゲノム障害医学研究センター・教授 兼 医歯薬保健学研究院・医歯薬学専攻・教授	血液学、分子生物学 博士(医学)	放射線災害医療コース担当
瀧原 義宏	タキハラ ヨシヒロ		原爆放射線医学研究所・放射線災害医療研究センター・教授 兼 医歯薬保健学研究院・医歯薬学専攻・教授	血液学、幹細胞生物学 医学博士	放射線災害医療コース担当
東 幸仁	ヒガシ ユキヒト		原爆放射線医学研究所・ゲノム障害医学研究センター・教授 兼 医歯薬保健学研究院・医歯薬学専攻・教授	循環器内科学 博士(医学)	放射線災害医療コース担当
永田 靖	ナガタ ヤスシ		医歯薬保健学研究院・応用生命科学部門・教授	放射線腫瘍学 医学博士	放射線災害医療コース担当
西尾 禎治	ニシオ テイジ		医歯薬保健学研究院・応用生命科学部門・特任教授	医学物理学 博士(理学)・博士(医学)	放射線災害医療コース担当
粟井 和夫	アワイ カズオ		医歯薬保健学研究院・応用生命科学部門・教授	放射線科学 医学博士	放射線災害医療コース担当
菅井 基行	スガイ モトユキ		医歯薬保健学研究院・基礎生命科学部門・教授	免疫学、形態系細菌科学 歯学博士	放射線災害医療コース担当
安井 弥	ヤスイ ワタル		医歯薬保健学研究院・基礎生命科学部門・教授	人体病理学 医学博士	放射線災害医療コース担当
田代 聡	タシロ サトシ		原爆放射線医学研究所・放射線障害機構研究部門・教授 兼 医歯薬保健学研究院・医歯薬学専攻・教授	生化学、分子生物学 博士(医学)	放射線災害医療コース担当
田中 純子	タナカ ジュンコ		医歯薬保健学研究院・統合健康科学部門・教授	衛生学、公衆衛生学、健康科学 医学博士	放射線災害医療コース担当
茶山 一彰	チャヤマ カズアキ		医歯薬保健学研究院・応用生命科学部門・教授	消化器病学、肝臓病学 博士(医学)	放射線災害医療コース担当
宿南 知佐	シュクナミ チサ		医歯薬保健学研究院・基礎生命科学部門・教授	口腔生化学 博士(歯学)	放射線災害医療コース担当
廣橋 伸之	ヒロハシ ノブユキ		医歯薬保健学研究院・応用生命科学部門・准教授	救急医学 博士(医学)	放射線災害医療コース担当
Dion Clingwall	ディオン クリングウォール		医歯薬保健学研究院・特任准教授	外国語としての英語教授法 教育学修士	放射線災害医療コース担当
志馬 伸朗	シマ ノブアキ		医歯薬保健学研究院・応用生命科学部門・教授	救急集中治療医学 博士(医学)	放射線災害医療コース担当
保田 浩志	ヤスタカ ヒロシ		原爆放射線医学研究所・線量測定評価研究分野・教授	放射線防護、線量評価 博士(工学)	放射線災害医療コース担当
静間 清	シヅマ キヨシ		工学研究院・エネルギー・環境部門・特任教授	環境影響評価、環境政策 理学博士	放射能環境保全コース担当
深澤 泰司	フカザワ ヤスシ		理学研究科・物理学専攻・教授	素粒子、原子核、宇宙線、宇宙物理学 博士(理学)	放射能環境保全コース担当
奥田 敏統	オクダ トシノリ		総合科学研究科・総合科学専攻・教授	生態・環境、資源保全学 理学博士	放射能環境保全コース担当

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成28年度における役割)
山田 俊弘	ヤマダ トシロ		総合科学研究科・総合科学専攻・准教授	植物生態学、森林生態学 博士(理学)	放射能環境保全コース担当
長沼 毅	ナガヌマ タケシ		生物圏科学研究科・環境循環系制御学専攻・教授	生物海洋学、微生物生態学 理学博士	放射能環境保全コース担当
加藤 範久	カトウ ノリヒサ		生物圏科学研究科・生物機能開発学専攻・教授	食品科学 農学博士	放射能環境保全コース担当
遠藤 暁	エドウ サトル		工学研究院・エネルギー・環境部門・教授	環境影響評価、環境政策 博士(理学)	放射能環境保全コース担当
田中 憲一	タナカ ケンイチ		工学研究院・エネルギー・環境部門・准教授	医学物理学 博士(工学)	放射能環境保全コース担当
土田 孝	ツチダ タカシ		工学研究院・社会環境空間部門・教授	地盤工学、地盤環境学 工学博士	放射能環境保全コース担当
山本 卓	ヤマモト タカシ		理学研究科・数理分子生命理学専攻・教授	分子遺伝学 博士(理学)	放射能環境保全コース担当
出口 博則	デグチ ヒロノリ		理学研究科・生物科学専攻・特任教授	植物分類学(蕨苔類学) 理学博士	放射能環境保全コース担当
高橋 秀治	タカハシ シュウジ		理学研究科・両生類研究施設・特任准教授	発生生物学、幹細胞生物学 博士(学術)	放射能環境保全コース担当
半井 健一郎	ナライ ケンイチロウ		工学研究院・社会環境空間部門・准教授	コンクリート工学 博士(工学)	放射能環境保全コース担当
坂田 桐子	サカタ キリコ		総合科学研究科・総合科学専攻・教授	社会心理学 博士(学術)	放射能社会復興コース担当
岩永 誠	イワナガ マコト		総合科学研究科・総合科学専攻・教授	実験心理学 学術博士	放射能社会復興コース担当
戸田 常一	トダ ツネカズ		社会科学研究科・マネジメント専攻・教授	経済政策 工学博士	放射能社会復興コース担当
杉浦 義典	スギウラ ヨシノリ		総合科学研究科・総合科学専攻・准教授	臨床心理学 博士(教育学)	放射能社会復興コース担当
勝部 真人	カツベ マコト		文学研究科・人文学専攻・教授	近代日本史 博士(文学)	放射能社会復興コース担当
中山 富廣	カヤマ トミヒロ		文学研究科・人文学専攻・教授	日本近代史 博士(文学)	放射能社会復興コース担当
後藤 弘志	ゴトウ ヒロシ		文学研究科・人文学専攻・教授	西洋哲学、倫理学 博士(Dr.phil.)	放射能社会復興コース担当
尾形 明子	オガタ アキコ		教育学研究科・教育学習科学専攻・准教授	臨床心理学 博士(心理学)	放射能社会復興コース担当
三浦 正幸	ミウラ マサユキ		文学研究科・人文学専攻・教授	文化財学 工学博士	放射能社会復興コース担当
後藤 秀昭	ゴトウ ヒデアキ		文学研究科・人文学専攻・准教授	地理学 博士(文学)	放射能社会復興コース担当
服巻 豊	ハラマキ ユカ		教育学研究科・心理学専攻・教授	臨床心理学 博士(心理学)	放射能社会復興コース担当
細井 義夫	ホソイ ヨシオ		東北大学医学系研究科・医科学専攻・教授	放射線科学 医学博士	放射線災害医療コース担当
島田 義也	シマダ ヨシヤ		国立研究開発法人放射線医学総合研究所・プログラムリーダー	放射線発がん 博士(理学)	放射線災害医療コース担当
小笹 晃太郎	オササ コウタロウ		公益財団法人放射線影響研究所・広島疫学部長	疫学 医学博士	放射線災害医療コース担当
安村 誠司	ヤスマウ セイジ		福島県立医科大学・医学部公衆衛生学講座・教授	公衆衛生学・疫学、公衆衛生学 医学博士	放射線災害医療コース担当
坂井 晃	サカイ アキラ		福島県立医科大学・医学部放射線生命科学講座・教授	血液、腫瘍学、放射線生物学 医学博士	放射線災害医療コース担当
大津留 晶	オツル アキラ		福島県立医科大学・医学部放射線健康管理学講座・教授	放射線健康管理学 医学博士	放射線災害医療コース担当
谷川 攻一	タニガワ コウイチ		福島県立医科大学・理事長付特命教授 兼 副学長(業務) 兼 ふくしま国際医療科学センター副センター長	救急災害医療、心肺蘇生法 博士(医学)	放射線災害医療コース担当
高村 昇	タカムラ ノボル		長崎大学・原爆後障害医療研究施設放射線疫学分野・教授	国際保健学 博士(医学)	放射線災害医療コース担当
原野 明子	ハラノ アキコ		福島大学・人間発達文化学類・人間発達専攻・准教授	幼児心理、保育学 教育学修士	放射能社会復興コース担当

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

広島大学は、世界で最初の被爆地に誕生した総合大学であり、理念5原則(平和を希求する精神、新たな知の創造、豊かな人間性を培う教育、地域社会・国際社会との共存、絶えざる自己変革)の下、広島市の原爆被害からの復興を支えて来た。特に、原爆放射線医科学研究所(原医研)は、原爆医療を基盤に放射線影響に関して世界をリードする研究成果を挙げており、医歯薬保健学研究科や病院とともに被爆者医療を担う医療人を養成してきた。また、21世紀COEプログラム「放射線災害医療の先端的研究教育拠点」では、ゲノム障害科学を基盤とした新しい放射線災害医療学を切り開き、放射線影響・医科学研究の全国共同利用・共同研究拠点としても放射線影響関連研究者の育成・支援に取り組んでいる。さらに、広島大学は西日本ブロックの三次被ばく医療機関として、我が国の緊急被ばく医療活動を展開するとともに、国際的な緊急被ばく医療ネットワークである国際原子力機関(IAEA)のRANET及びWHO-REMPANに参加し、国際的な活動にも取り組んできた。

平成23年3月11日に発生した未曾有の東日本大震災と、それに続く福島第一原子力発電所事故を受け、日本は初めての原発災害を経験している。広島大学は、三次被ばく医療機関として、延べ1,300名を超える「緊急放射線被ばく医療援助チーム」を福島県に派遣し、被ばく傷病者搬送や住民被ばく管理など緊急被ばく医療体制の確立に指導的役割を果たしている。また、原発災害では、被ばくによる直接の人体障害や環境放射能汚染だけでなく、環境放射能汚染に対する国民の不安とストレスの増大により、結果的に人や社会までもが破綻されることが明らかとなった。

本プログラムでは、原爆からの復興を支えた広島大学の実績と経験を生かして、医学、環境学、工学、理学、社会学、教育学、心理学等の各専門学術分野を結集し、「放射線災害復興学」を確立し、放射線災害から生命を護る人材、放射能から環境を護る人材、放射能から社会と子どもを護る人材を育成する。本プログラムでは、分野融合型専門教育として、放射線災害医療コース、放射能環境保全コース及び放射能社会復興コースを置き、共通科目及び専門科目に加え、実践型コースワークとして、ヒロシマ・フェニックストレーニングセンター(HiPTC)での実践トレーニング演習を提供する。HiPTCでは、放射線事故被災者に対する緊急時医療と緊急時医療要員の教育訓練、環境放射能線量測定・評価訓練などのトレーニングを通して、リスク認知能力、リスクコミュニケーション能力等を身につけ、放射線災害対応能力を培う。

さらに、連携機関である福島県立医科大学、福島大学、東北大学及び長崎大学の参画による現地フィールドワークや、放射線医学総合研究所等の研究機関、IAEA等の国際機関、関連企業及び地方自治体等

での国内外インターンシップ等の実践教育を活用して、放射線災害に適正に対応し、明確な理念の下で復興に貢献できる判断力と行動力を有した、国際的に活躍できる分野横断的統一的グローバルリーダー(フェニックスリーダー)を育成する。この人材育成を通して、放射線災害からの復興を牽引し、21世紀のモデルとなる、安全・安心の新社会システムの樹立に貢献する。

ヒロシマの使命と学術

**21世紀COEによる放射線災害医学の新展開
放射線災害から復興する医療、環境、社会のヒロシマ学**

**グローバル人材の育成のための国際的な放射線関連
教育研究拠点等との連携と世界展開**

- ・世界トップの原爆疫学研究機関との連携 放射線医学総合研究所、放射線影響研究所
- ・広島大学での取組 スーパーグローバル大学創生支援、がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン など
- ・放射線医学の全国共同利用・研究拠点 「放射線災害医療の先端的研究教育拠点」
- ・海外大学・研究機関等との連携
 フロリダ州立大学(アメリカ)、サンパウロ大学(ブラジル)、台北医学大学・台湾国立中央大学(台湾)、
 ホーチミン市医科薬科大学・ホーチミン市人文社会科学大学(ベトナム)、シンガポール国立大学(シンガポール)、
 サバ大学(マレーシア)、プティサストラ大学・カンボジア赤十字社・カンボジア国立健康科学大学・
 カンボジア王立ボンペン大学(カンボジア)、オークリッジ科学研究所放射線緊急時支援センター(アメリカ)、
 ブラジル国家原子力エネルギー委員会 など
- ・国際機関等との連携
 国際原子力機関(IAEA)、国際放射線防護委員会(ICRP)、放射線被曝者医療国際協力推進協議会(HICARE)、
 世界保健機関(WHO)、原子放射線の影響に関する国連科学委員会(UNSCEAR)、アジア放射線研究会議(ACRR)、
 国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC) など

安全・安心を保障する我が国の拠点としての三次被ばく医療機関

医学、環境学、工学、理学、社会学、教育学、心理学など

放射線災害復興を推進するフェニックスリーダーの育成

原爆放射線医科学研究所、医歯薬保健学研究科、病院、理学研究科、文学研究科、
 総合科学研究科、教育学研究科、生物圏科学研究科、工学研究科、社会科学研究科
 福島県立医科大学、福島大学、東北大学、長崎大学、放射線影響研究所、放射線医学総合研究所

放射線災害医療コース

放射能環境保全コース

放射能社会復興コース

学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

放射線災害復興を推進するフェニックスリーダーの育成

